

CONTENTS

はじめに 2

背景として 4

趣旨と目的 8

「する」「みる」「支える」 10

 「する」 11

 「みる」 16

 「支える」 18

ファミリー 20

主な障がいの特性と
障がいのある人への配慮 22

障がい者サッカーを 28
楽しむ仲間たち

 00_日本障がい者サッカー連盟

 01_アンプティサッカー(切断障がい)

 02_CPサッカー(脳性麻痺)

 03_ソーシャルフットボール(精神障がい)

 04_知的障がい者サッカー

 05_電動車椅子サッカー

 06_ブラインドサッカー(視覚障がい)

 07_デフサッカー(聴覚障がい)

あとがき 39



はじめに

サッカーを愛する私達にとって、サッカー、スポーツを共に楽しむ仲間が増えることは喜びです。

それがさらに増え、広がっていくように、より楽しめるように、より楽しみやすくなることは、「JFA2005年宣言」にうたわれている、JFAの理念、ビジョン、約束とも通ずるものです。

サッカーは世界のスポーツ。言葉が通じなくても、ボール一つあればみんなが楽しめるスポーツであると言われます。誰もがすぐに一緒に楽しめるのがサッカーの良いところ。みんな楽しむという「当たり前」をもっと広げ、伝えていきたい。関わり、出会いを増やしたい、広げたい。

それは、障がいがある人も同様です。様々な種類の障がいがあっても、サッカーはちゃんとある。サッカー、スポーツをあきらめる必要などありません。

もっと身近で、自分に合った選択肢でサッカーがやれると良い。だから、もっと身近で、楽しめる場が増えると良い。サッカーを「する」のはもちろんのこと、「みる」こと、「支える」ことにも、もっと積極的に関わりたい。

そのためには、それを当たり前にしてくれる仲間がもっともっと必要です。既にそれを当たり前にしていただいている皆さんもいらっしゃいます。でもその一方で、そう思うけれど、気になっているけれど、踏み出せない、どうしたら良いかわからない、知らなくてわからないから不安、という人もたくさんいらっしゃるかもしれません。そんなことを考えてみたことがなかった、という人もいらっしゃると思います。

そのような皆さんが、一歩踏み出せるように、考え方と事例を示し、具体的に行動してみるためのきっかけをつくりたい、というのがこのハンドブックを作成しようとする動機です。

気づきときっかけを得て、一歩踏み出す人が増えてくれたら、こんなに嬉しいことはありません。私達が掲げてきたJFAの理念、ビジョン、グラスルーツ宣言、これらは実現するためにこそあります。

サッカーファミリーを増やし、世界を広げていくこと、サッカーの広さ、深さを分かち合うことは、サッカーに関わる私達一人ひとりがしていけること。

日本サッカー協会は、2021年に100周年を迎えます。サッカーファミリー、次の100年に向けて、サッカーをもっと広く深く豊かに、誰にとってももっともっと身近に。

サッカーを通して共生社会の実現を目指しましょう。その力がサッカーにはあります。